

ドーグラス
スーパース
五で結婚し
して八人の子
の八を生む

性と結婚

一九〇

ドーグラスと云ふ瑞典の男は百二十歳の時に死んだのであるが、八十五歳の時に結婚して八人の子供を残したと云ふことになつて居る、其中の一人は百三歳で死んだと云ふやうな實例がある、併しさう云ふ非常に長壽した人の例を引張り出さずとも、それは特別な例として取除けて、例へば茲に百歳以上の人が日本に何人居るか、其家系に於て子供は何人出来て居るか、其子供の死亡率はどうであるかと云ふことを獨逸なり、亞米利加なりで調べられた所に依ると、確にさう云ふ長生をする家系に於ては矢張り子供は能く育つ、さうして一般に長生をすると云ふやうなことが言はれて居るのであります、此壽命と生殖腺の問題はさう云ふ風の研究からも考へられるが、一方外の方面からも確に密接なる關係があると云ふことを主張することが出来るのである、例へば卵巢を有つて居るか、睪丸を有つて居るかと云ふこととの關係から致して長生をすると云ふことの上に尠からぬ相違がある、即ち一般に申すに女子は男子に比べて長生をするのであります。

性の脅威に對する抵抗は婦人の方が男子よりも根強いのである、一體婦人は根氣強い、男の力は一時的のものである、併し堪へて永續きをするに云ふ方法は婦人に於て其特色が

性の脅威に對する抵抗は婦人の方が強し

男女死亡の統計

餘計現はれて居る、此根氣強いと云ふ性質は婦人が子供を育て、行く上に、即ち婦人としての大切なる天職をする上になければならぬ非常に大事な性格である、そこで此命を繋ぐと云ふこと、命に對する執着は、即ち生の脅威に對して抵抗する所の者は婦人の方が男子よりも強いのである。

例へば茲に十萬人の人が生れたとして十萬人が一年の終り、二年の終り三年、四年の終りと云ふやうに調べると、同心環境に育つたものとして一年の終りに二千六百七十何人と云ふものが獨逸の統計では女の方がそれだけ餘計生残る、兎に角死亡する数を調べると決して男女等しくない、年寄を御覽になると御婆さんの方が多い、さう云ふ相違の起るのは或は後天的の關係から説明の出来ると云ふ人もある、男子は劇烈なる生存競争の渦中に投じてさうして無理をしなければならぬ、非常な身心の過勞をやる、或は又それと同時に男子は耽溺生活をやる、それで色々の病氣に罹つて其爲に命を縮めると云ふやうなことがある、と云ふことを以て男女の長生の程度、或は死亡率の相違を説明しやうとする人もありますが、併しそれだけでは完全に説明は出来ない、何故かと云ふと腹の中に宿つて居る時

性と結婚

一九一

から既に男女の死亡率が違ふ、胎児の死亡、即ち死産である、死産の数を統計で見ると男の子の死ぬ方が女の死んで産れる数よりも多い、女の百に對して男は百三十五と云ふやうな割合で斯様に男の子は死んで産れる、胎内生活をして居る中に耽溺生活をやると云ふことも考へられないから是は確に性の別である、男たるが故に、女たるが故に見られる所の性の區別である、男の方は死に易い、女の方は死に難いと云ふことを考へなければならぬ、或は又産れてから後間もなく死ぬる所の統計を取つて見ると男と女の子では違ふのであります、産れてから半時間の後女の子が一つ死ぬる間に男の子は十六死ぬる、と云ふやうな關係になつて、非常に能く男の子は死ぬ、一時間の後にはどうかと云ふと二に付て十九と云ふことになつて居る、それから六時間の後には七に付て二十九と云ふやうな數になつて居る、産れてから一日後に女の百死ぬる間に男は百二十八死ぬる、それから二日目には女の百に對して男は百三十六死ぬる、三日目には女の百に付て男が百三十四死ぬると云ふやうな割合になつて居る、四日目には女百に付て百四十三と云ふやうなことになつて居る、斯んな譯で産れてから死ぬまでの死方を見ると女の方が死方が少い、是は全く本來の性質が

男なるが故に死に、女なるが故に生存に對して根強いと云ふことの説明をしなければならぬ。

強きもの
よ汝の名
は女なり

斯う云ふことを考へて見ても強き者よ汝は女なりである、女は恵まれて居るのです、婦人は子供を育て、行かねばならぬ大任を有つて居る、其爲にはどうしても生命の競争に對して強い抵抗を有たなければならぬ、斯う云ふことを考へなければならぬのであります、即ち生殖腺と云ふものが壽命に影響すると云ふことは此點から考へても言へる、雌性の生殖腺卵巢と云ふもの、雄性の生殖腺睪丸と云ふものはさう云ふ男女の特性を呼起す上に非常に勢力を有つて居るものであつて、さう云ふ男女であるが故に一方は壽命が長く、一方は割合に短いと云ふことは何を意味して居るか、是は生殖腺殊に生殖の働き等が壽命の問題の上に密接な關係のあること云ふことを語るものであります、此立場から考へて見ても生殖腺の機能を健全に行つて行くと云ふことは非常に大事なことである、自分の命の惜しいものは此問題を十分に慎まなければならぬと云ふことを明瞭に語つて居るものと云ふことが出来るのである、又前申したやうに長生をすると云ふことの關係を家系に於て調べるには直

系に於ても傍系に於ても出来る限り調べ、さうして長生をする家系と結婚することが優良なる性質を有つて居るか居らないかと云ふことを判断する一つの標準として最も重きを爲さなければならぬのである、と云ふことの理窟が立派に立つて行くと思ふのであります。斯る意味から申すと優生學的の立場から自覺してさうして最も幸福なる結付方をやらうと云ふやうな斯う云ふ標準を立てる上に於て遺傳の知識が非常に必要であつて、遺傳的關係に於て家系を研究すると云ふやうな場合に、實際問題から統計に重きを置かなければならぬのは長生をするかどうか、と云ふことを見るのが非常に必要であると申して宜からうと思ふのであります。

斯の如く兎に角私は専ら生物學的方面から論じて居るのでありますが、本當の意味に於て今申した様に結婚に自覺する、さうして番に感情の馬にのみ驅られないで理性の助けに依つて之を制御する場合に於て生物學的に論じて見ると、第一に生殖の意義を十分に尊重する、それに先づ自覺する、さうして進んではそれが如何に壽命の問題にまでも重大なる關係を有つて居るか云ふことを十分に理解することが必要である、さうして又遺傳學的に

生殖の意義を尊重し、理性を働かしてよく自覺せよ

考へて其立場から十分なる選擇をする標準を設けてそれに成るべく近くと云ふことに努めなければならぬのであります。

以上は専ら個人的の問題に付て結婚生活を論じたのでありますが、更に翻つて人間として、人間が寄つて國家を形造つて國家の生活の立場から如何に個人の結婚と關連して重大なる意義があるかと云ふことを考へなければならぬのである、國家とは何であるか、即ち多數の人が寄つてさうして形造つて居る所の社會生活である、一つの個體を取つて考へて見ると多數の生きて居る所の細胞が相寄つてさうして一つの纏つた生活、即ち一個體と云ふものが出来て居るのである、それと同じ意味に於て一つの個體が無數に寄つてさうして一つの纏つたる社會生活と云ふものが實現せらるゝとしたならば、此社會生活の生きたる標本、社會生活の最も理想的の標準と云ふものは即ち生きて居る所の完全なる働きをする所の我々一つの個體に於て之を認めるのである、社會發達の標準として生物の研究が必要である、生物の身體の機能を知ることが非常に興味があると云ふことはそこに於て言へるのであります、新しい社會學者の多數の人は社會を以て一つの生物と看做して居る、丁度恰

社會を一個の生物と見るならば

も一個の個體が無数の生きて居る細胞から出来て居ると同じ意味に於て無数の人間が生きて居る個體と云ふもの、土臺から一つの生きて居る所の社會と云ふ有機體を拵へて居るのであります。

斯う云ふやうに説く人もある、さう云ふ立場から考へて見ると恰も一つの個體、即ち一つの生物の永遠の命を繋ぐ上に於て生殖生活、即ち第二の我を造ると云ふことが非常に必要である、第一社會の將來を左右する所の非常に大なる方面は即ち第二の社會を造るべき所の新しい國民がどんな風に生れて来るか、矢張り此社會と云ふ一つの有機體の生殖作用である、即ち國家と云ふ一つの有機體の人口問題である、之を慎重に考へることに依つて更に我々が此結婚問題の上に於て自覺する所がなければならぬと思ふのであります。

然らばそれは何であるかと言へば一言にして之を盡せば優良なる素質を有つた者を國民の後繼者として成るべく餘計造る、優良ならざる素質を有つた者を成るべく出来ないやうにする、絶対に出来ない云ふことは出来ないにしても成るべく其數を制限すると云ふことに歸着するのである、さうして是が人種優生學或は優生學、或は消極的の優生學と唱へ

結婚は國家社會の重要な意義がある

ユーズニックスの問題

る所のユーズニックスの問題である、最近の遺傳學の進歩と共に生れた所の學問の大方針であり、又實際に今後我々は其理想に盡すことに向つて努めなければならぬのであります、而して斯う云ふ立場から現代の文明國と云ふ有機體はさう云ふ生殖をして居るか云ふことの關係を考へて見ると、現代の文明國、或は過去の文明國、即ち歴史に溯つて之を調べて見ると何れも如何にそれが重大なものであるかを立證せざるはないのである、多くの文明國は文明の花を開いてさうして一時世界を支配すると云ふやうな偉い勢偉い發達を遂げるにしても、遂に其は地に委して仕舞ふと云ふ事實は一度歴史を繙けば到る處散見する所である、即ち埃及にしても、希臘にしても、羅馬にしても或は近くは隣の老大國にしても、或は印度にしても一時は文明の中心となり、燦爛たる文明の花を咲いた所であるが、何時かしら滅亡に歸して仕舞つたのは畢竟何に起因するのであらうか、是まで人は専ら其方面を考へるに當つて或は社會制度の如何であるとか、或は倫理、教育の問題を考へるとか、さう云ふ所謂形而上的方面のみ思ひを驅せて居つたが、それだけでは原因の一部を説明したに過ぎない、若しさう云ふことだけが土臺であつたならば何故にあの立派な文明

の花を開いた希臘が今日の衰亡に陥つたでありませうか、我々は之を説明することが到底出来ないのである、併し我々は一面にさう云ふ無形的のことを考へると同時に一面生物學的の關係であります。

即ち此文化を造り出す所の人間、民族其もの、生物學的の價值と云ふものはどうであるかを併せて考へる時に初めて満足なる理解を茲に得ることが出来るのであります、希臘にしても、羅馬にしても、印度にしても其衰亡を起す所の最後の原因と云ふものは其國を形造る所の人物の素質と云ふものが不良になつたからである、如何に是が大切な意義を有つて居るかと云ふことは唯一のプロレタリアと云ふ言葉を借りて言つても分る、プロレタリアと云ふ言葉が能く雄辯にそれを説明して呉れるのであります、プロレタリアと云ふ言葉は希臘に於て起つたのである、希臘の文明が燦爛たる花を開いて爛熟に傾いた時、初めてプロレタリアと云ふ言葉が出た、即ちプロレス、子供を造つてさうして國家に貢献する所の階級、斯う云ふ意味である、下層の人間で租税を拂つて國家に盡すこと云ふことが出来ない、其他色々大切な仕事をして國家に盡すことが出来ない、唯子供を餘計造る、子供

プロレ
タリアの語
源

を造つてさうして人口の減る所を補つて呉れた、斯う云ふ意味からさう云ふ階級の人をプロレタリアと呼んだのであります、其事實は如何に其當時の希臘に於て希臘全體を左右するやうな優良なる知識階級の生産率と云ふものが衰へて、其代り不良なる所謂第三階級と唱へられる所の下級に位する所の心身の素質に於て好ましからざる所の階級に於て生殖作用が保たれて居つたかと云ふことが分る。

良種が全滅して、不良種が跋扈して居つたことを語るのである、斯う云ふ譯であるから希臘は文明の爛熟期に於て早く既に凋落の兆を現はしたのであります、如何に文化的産物が此世の中に残されても其文化的産物を直ちに之を同化し、之を後代に傳へるのは人間である、其國民其もの、心身が下落した時にどうして其國家が永遠に榮へることが出来ませうか、斯かる意味から考へて現代の文明國の國家としての第二の我を造る所の生産の仕事を見ると頗る寒心すべき状況にあるのであります、それはどう云ふことであるかと申すと、一言にして盡せば近時衰へて來た、即ち歐羅巴文明國に於ては各國共に今より約四五十年前を絶頂として非常な勢を以て遞減して來た、其遞減して來たと云ふことの事實が若

憂ふべき
現代文明
國の生産
状況
逆陶汰

しも國家の好しからざる素質を有つて居る階級の者が減り、優良な素質は維持されて居ると云ふならば減ると云ふことは決して憂ふるに足らぬが、若しも其減ると云ふことの關係が好しき階級に於て減つて居る、さうして好しからざる階級に於て生産率が依然向上して居る、斯う云ふことであるならば、其減るこゝは唯數の問題に非ずして質の問題になる、益々憂へなければならぬ問題である、そこで文明國の人種優生學者が戰爭の始まる前に其問題に付て色々苦心して調査した所に依ると悲しいかな優良なる者の生産率が少く、比較的好ましからざる所の素質に於て依然として生産率が出て居ると云ふ、斯う云ふ事實を見て歴史の繰返すことに今更ながら驚いてどうかしなければいけないと云ふことを頗る心離して居つたのである、さう云ふ事實、さう云ふ結論に達するまでのことは色々ありますが一々申述べませぬ、例へば佛蘭西邊りで千九百十二年ですかドレスデンの萬國博覽會にそれを出した、それは佛蘭西で非常に優秀なる一國を代表するやうな人物を各方面に於て求めて其家庭に於てどれだけ子供があるかと云ふことの數を調べて見ると非常に少い、逆も父母の數を補ふことすらも出来ない云ふやうな關係を見たのである、或は又更に他の方

面から調べて、例へば東京とか、倫敦、或は伯林と云ふやうな大都市に於て比較的知識階級の優れた人の住んで居る區域と、それからして然らざる方面と區劃を極めて、そこに婦人の生産期にある二十歳から四十歳に達して居る其區劃内の婦人がどれだけ子供を産むかを調べ、優良なる區域に於ては遙に不良なる區域より生産高が少い、或は又進んで相關々係を調べて見ても、社會的に斯う云ふ出來事が起る、其場合に出生率の關係はどうであるか云ふことを調べる、例へば泥棒が殖える、泥棒が殖えると云ふこと、此出生率の關係を調べると、泥棒が殖えれば生産率が殖える、其相關々係は可なり濃厚である、或は一室に二人以上住まなければならぬやうな所謂貧民階級の者が非常に殖えると今度相關々係に於ても積極しやくきよくにして片一方が殖えれば片一方も殖えると云ふことになつて居る。今度例へば上流の優秀なる家庭、例へば雇人を何人以上使用する所の家庭が殖えると云ふこと、出生率の關係はどうであるかと云ふと、相關を考へるとそれは逆さかになつて居る、さう云ふ家庭が世の中に多くなると反對に生産率が減つて居ると云ふやうな、さう云ふ相關の關係を調べて見てもどうしても現代の歐羅巴文明國に於ては好ましからざる素質を有つた者の

生産率が減らないで好ましき者の生産率が減ると云ふやうなことに非常に憂慮して居る。

所が今度の戦争に於て尙ほ一層其點に於て打撃を受けなければならぬのであります、何となれば優良なる素質の者が召集された、即ち徴兵に選擇されるまでには三回の試験を経過した男子である、第一回の試験は子供の時に受ける、男の子は子供の時に抵抗が弱いのであるから弱い素質を有つた者は子供の時に死ぬ、其時に堪へて生残る、是が第一の試験に及第したのである、第二の試験は徴兵検査である、是は兎に角一定の標準を拵へて熱練せる徴兵官が試験した、是に通つた者は第二回の試験に及第したのである、第三の試験は戦場に送られて非常な困苦缺乏に堪へて根強く抵抗して病氣にならない、戦場に踏止る、弱い者は病氣になつて後送される、さう云ふ風な譯で一番良い者が兎に角残されて、さうして、それが非常なる慘虐なる殺人機械の下に用捨なく殺される、而かもさう云ふ人は優秀なる素質を後代に残すと云ふ機會を與へられない中に、即ち多くの場合結婚することなしに永遠に國民の中から奪ひ去られて仕舞ふ、即ち約八百萬人と云ふ者の尊い血液の犠牲が其爲に拂はれたと云ふことは、國家としても、將又人類としても非常に悲しむべき出来

大戦によつて更に好ましく打撃を受ける

事と言はなければならぬ、さう云ふ良い種の者が戦争の爲に犠牲に供せられ、悪い者、心身に於て好ましく打撃を受ける者が自由に自分の子孫を後代に残すことの機會を與へられたのであります、是は非常な不合理である、逆淘汰であります、正當なる淘汰は生物の進歩の爲に喜ぶべきことである、悪い者が残されると云ふことは全體に取つて非常に憂ふべき事柄である、さう云ふやうな譯で現代の歐羅巴の心ある人は國家の生殖問題に付て非常に心を悩まして居るのである、戦争前然り、戦争に依つて尙ほ一層痛切に此問題に付て頭を悩まして居るのであります。

我日本に於てはどうであるか、此戦争などは一時の出来事であるが、文明と云ふことが進むと、屢々文明の進む爲に逆淘汰が行はれるのである、文明は立派な明るい光を我々の頭に投げると同時に、暗い陰を我々に與へるのであつて、其暗い陰の一面として文化生活と云ふことは屢々逆淘汰をするのである、非常に慘酷に見えても戦争の如きは一時であるが、文明と云ふことは爛熟するに屢々逆淘汰が行はれる、其逆淘汰の結果前申しましたやうに優秀なる素質を有つたる上流階級に於ては子供が出来ない、さうして然らざる階級に

日本にもこの逆淘汰

於て子供が能く出来ると云ふやうな好ましからざる現象が起る、是が民族の衰亡を起す非常な大事なる原因を爲すのである。

かくして絶えず我々の頭の上に文明の進むに連れて逆淘汰を及ぼして憂ふべき結果を齎らす、其實際の上に於ての大切なることは何であるかと云ふと所謂避妊の問題であります、享樂主義に伴ふ所の避妊の問題である、文化生活と云ふこと、避妊と云ふことは非常に密接な關係がある、避妊と云ふことを新マルサス主義として今日或る方面の一部に唱道されて居るが、其モットウとするものに付ては決して私は異存を挾まない、のみならず之を賛成する、マルサス主義のモットウは貧乏を救ふと云ふことである、貧乏を救ふと云ふのは好ましからざる性質を有つた階級、社會の生存競争の劣等者となつたもの、生活所ではない生存も出来ない者が子供を餘計有つて苦しんで、其爲に益々苦んだ結果は不道徳を起す、罪惡を犯す、其他子供も親も色々な苦い運命を受けなければならぬ、さう云ふやうな者に對する一つの急救療法として避妊をやる、受胎制限をやると云ふことは是は色々な點から見、社會政策から見、優生學の立場から見ても頗る宜しい、處置宜しきを得たもの

文化生活
と享樂主義
と避妊

であるが、悲しいかなさうでない、現代の文明國に於て優秀なる階級の者が生れることが少くなつて、さうして下級なる階級の者は依然として生産の仕方は繼續して居る、さうして遂に國民全體の素質を悪くすると云ふことの主なる原因は受胎制限である、さうして現在の文明國に於て矢張りそれを繰返して居ると云ふことは餘程我々が注意しなければならぬ大問題であらうと思ふのであります。

時間が経ちますから詳しいことは申上げませぬが、どうしても此享樂主義の頭のある知識階級に於ては現代の文化の非常に刺戟の強いと云ふのに對して完全にそれに向つて出来るだけの慾求の満足をする爲めに努力する、生存競争の劇しい最後の優勝者とならうと云ふことの爲に、又出来るだけ其目的に向つて全體のエネルギーを集中して外のことを成るべく軽減しやうとする、さう云ふ色々なことが相寄つてさうして勢上流の階級、上流の人士、素質の優れたる知識階級に於て其恐るべき毒盃を自から傾けるやうになつて來たのであります、是は國家の將來に付て非常に考慮しなければならぬこと、思ふのであります。それから文化生活が進む爲に生存競争が劇烈であれば晩婚が行はれる、晩婚が矢張り子

新マルサス主義の
標語はよ
くはど
もは
結果は
結ば
期せざ
るに
傾く
悪く

注意すべ
き晩婚の
風潮

歴史は繰
返すもの
なり、結
婚問題は
個人問題
に非ず、
國家の問
題として

性と結婚

二〇六

供の生産を遅くすると云ふことになる、是は國勢院で我日本の最近の結婚の統計を見ても晩婚が劇しいのであります。(表示)斯の如く晩婚の傾向があります、さうして而かも晩婚が子供の數の上にどう云ふ影響を及ぼすかと云ふと、可なり著しい影響を及ぼすのであります、茲に結婚の年齢別と産兒の平均數を挙げてあります。(表示)

斯の如く文明が進むと晩婚が起る、晩婚と云ふことは後繼を造る生殖の仕事の上に如何に不合理であるかと云ふことは申すまでもない、さうしてさう云ふやうに文化が進むと色々なことが知らず識らずの間に第二の我を造る、言葉を換へて云ふと自己生存と云ふことが困難になつて來れば、劇烈になつて來れば來るだけ第二の我を造ると云ふことの仕事が疎かになつて來る、是は我々文化生活をやる上に於て最も注目しなければならぬこと、思ふ、是は今までのやうに個人問題であると云ふよりも寧ろ國家の問題である、國家が之に對して十分なる施設をする、十分なる社會政策をする、さうして出来るだけ惡種を殲滅して良種を保護すると云ふことの途に出なければならぬのであります、さういふ立場から論ずることは色々ありますが、要するに是は優生學的問題である、最も慎重に是から後

の當局にある者は勿論、或は又國民として國家の將來に付て深く考慮しなければならぬこと、思ふ、幸にしてまだ我日本に於てはそれ等の問題に付て歐羅巴文明國程ではない、我國は戰爭には參加致しましたが、併しその影響は人種優生學的から考へるにそれから受ける所の影響は頗る僅少である、殆ど文明國の中で日本位之に對して打撃の少なかつた國はないと言つて宜いのである、併し歴史は繰返すものである、而してそれに對しての傾向と云ふものは矢張り我國に於ても早晚來るべきものであり、既に來つて居るのである、どうしても我々はそれに對して十分なる覺悟を有たなければならぬ、是は個人問題に非ずして國家の問題であると云ふことを私は申上げて、さうしてそれに對する十分なる皆さんの御盡力を煩はしたいと思ふのである、日本に於ける現在の結婚の有様を統計的に申しますと歐羅巴各國に比べるとまだく幸福なる状態にあるのであります、是は矢張り最近の國勢院の調査に依つて茲に一二例を挙げたのであります、斯う云ふやうになつて居る。(表示)戰爭などがあると非常に減るのであります、是は面白い現象です、是は矢張り經濟問題が影響して景氣が好いと結婚數が高まる、大體に於て結婚は容易く行つて居る、男女

性と結婚

二〇七

の数の比例なども日本に於ては西洋各國程それ程男女の数が釣合を失して居らぬ、さう云ふ點に於ては餘程幸福である、英吉利などは少い、日本は此點に於て幸福であるが將來は十分なる覺悟を之に對して有たなければならぬ。

離婚問題

離婚問題に付て見ると(表示)随分日本は離婚の多いと云ふことが分る、平均日本では先づ千に付て一、五位から始つて段々下つて來る、日本は離婚の数の多いと云ふことに付ては十分考へねばならぬ、之に内縁の妻と云ふやうなものを入れたらもつと成績が悪いと云ふことになるのであります、而して此夫婦の關係が繼續する期間、離婚がどの位の時に一番餘計行はれるかと云ふことの動機を見ると一年未滿のものが多く、さうして大體結婚後五年目位まで、六割四分と云ふものを占めて居る、是は世間で能く言ふことですが、まだ本當に理解し合はないのだから、始めは理想を懷いて互ひに寄つて見るが存外つまらぬと云ふことになる、一番離婚の多いのは一年未滿である、さう云ふのがちやんと統計の上にはれて來て居るのです、であるから我國に於ける結婚の現在趨勢は歐羅巴に於ける程さう困難でない、歐羅巴各國に比べると良い状態である、併し離婚は割合に多いが年々減つて

來て居る、是は非常に喜ぶべきことである、其他生産率の問題、死亡率の問題、結婚と結付いた國家の第二の我を造ると云ふ方面に於て御話しなければならぬことが澤山ありますけれども、一々それを御話することは時間が許しませぬから申述べませぬ。

要するに唯今申述べた所を概括して見れば結婚生活と云ふものは一面に於て個人として、或はもつと少し擴げて言へば一家として非常に大事な問題であるのみならず、更に一國として非常に重大な問題である、申すまでもなく一國を形造る第一歩と云ふことが出来る、さう云ふ譯であるから最も大切な意義を有つて居る所の性慾の問題を生物學的に餘程慎重に取扱つて、生物學的、生理學的、或は遺傳學的の立場からして性慾なり、生殖の問題を理性的に解決すると云ふことを出来る限り努めると云ふことが抑も人間が人間としての尊い仕事をする、尊い生活を爲して行く上に付ての最も尊いものであると云ふことを私は申上げたのであります、而してそれは矢張り國家の運命を左右する所の重大なる力を有つものであると云ふことを申上げたのであります、シューラーと云ふ人が有名な鐘の詩と云ふものを作つて其中に人間生活の春を以て、人間の生活の最も美しい華やかなる舞臺

を以て人間の生活の春は終るのである、さうして花は萎み、而して木の實は残ると云ふことを申して居ります、これは實に人間の結婚生活の意義を最も美しく蘊蓄深く言つたものであると思ひます、實際結婚と云ふものは華やかな舞臺であるが、其後ろには最も嚴肅なる、最も眞面目なる本當の人間の生活が隠れて居ると云ふことを考へなければならぬのである、其舞臺を終ると共に本當の嚴肅なる、本當の人間生活の第一歩に入ると云ふ覺悟を有たなければならぬ、是は獨り個人の問題でなく國家の問題であります、斯る意味に於て此處女會を指導して御出になる重大なる運命を有つて居らる、所の諸君が十分に結婚生活の生物學的、或は民族優生學的の意義を尊重せられて、さうして適當なる指導を施さるゝことが即ち我日本の國家、更に大きく言へば人類生活の上に最も重大なる意義を齎らす最も大なる幸福を齎らすことの根柢を爲すに至るものと信するのであつて、其意味に於ては前申しました如く、此講演を致すことの機會を與へられたことを非常に感謝し、又非常に光榮と信するのであります。

婦人の衛生

東京女子醫學專門學校長 吉岡彌生女史

地方人士の開發に御熱心なる會員各位、殊に處女の指導に十分なる御經驗を有せらる、皆さんの前に、私共遠く地方を離れて中央生活を永くして居る者の話は、ホンの理想の問題にして到底地方の處女に實行し得られぬものだといふ御思召が定めし御ありの事と考へて居る、實は中央部で講習會を開きますのは勿論指導者に御参考となるべき方法を取る事は主眼で御座りますが又一方には皆さん方を御呼びして斯う云ふことを申上げては相濟みませぬけれども、皆さんに色々地方の状況、實驗談等を伺ひ、さうして中央部で連絡を取り全國處女會の發展を計りたく考へたのですが、何分にもまだ第一回のことで理想通りの目的を達しませぬで定めし皆さんは御不滿の點が多々あること、考へますけれども、不行届きの點はどゞ是は第一回だと思召して今後は共に研究しよう云ふ寛大の御心を以つて

將來に對する御希望の許に御辛抱なすつて戴きたいのであります。殊更私の此所に掲げた演題は都會の生活には向くが、到底地方の處女には向かないといふ御考への方もあらうと思ふのですが、指導者の皆さん方は斯ういふ原理であるといふことを御含み下すつて、さうして徐々に改善して行つたならば其効果も擧がるだらうと考へますので、地方の状況及び生活状態に應じて御取捨下さるやうに願ひたい、甚だ皆さんに適應しない、殊に御男子の多い此席に於て斯ういふ問題は至つて不適當と思ひますけれども、男子も女子と矢張り同じやうなことを、其原理だけは覺えて置いて、其作業は分擔するのが今後の世の中ではあるまいかと考へますから、何か他の領分に御這入りになるやうな御心持も致されませうが、處女を指導するには自分達でも斯ういふことも辨へて宜しいといふことで、中には甚だ露骨な言葉もあるかも知れぬけれども、どうも職掌柄已むを得ないこともあり、私が徒らに奇を好んで斯ういふ題を出した譯ではありませぬから、其點を御含み下すつて、自分の指導する處女に斯ういふ思想を徐ろに起してやりたい、どうぞさういふ風に御考へを願ひたいので御座います。

一、性的差別

性的差別など、いふに大變大きな問題のやうですけれども、さういふ譯ではないので、皆さんは多分斯ういふことを御考へになること、思ふ、男と女の出来るのはどういふ譯か、勿論高等教育を御受けになつた方であるから、生理も、胎生學も御解りでせうが、専門外のことは時々忘れることもあるので、斯ういふ問題が出ること、思ひます、同じ両親の下に同じ動機で出来るものに男と女とある、是は醫者にも解らぬ、私共淺學者者ばかりでなく、もつと先輩の學者にも解らぬ、所謂造化の妙で、神様より外には解らぬと思ふ、受胎する時は何等の差別もないので、男子の精蟲と女子の卵と相合體する時には、何も男にならうか、女にならうかといふことを考へずに受胎するのである、それで長い御話は到底出来ませぬから、其動機とか機轉とかいふことは申上げませぬが、受胎後九週間は稍々同じやうに發育して行く、九週間を経ると初めて生殖器に差別が付いて来る、それ以前はどんなに胎生學上から見ても何方になるか解らないのです、丁度九週間を経ますと一つの

組織に段々機轉を變へて來て、段々成熟すると次のやうになります、斯ういふことを私が申すと、文部省でも、内務省でもいけないと言はれませうけれども、此所は公開の席の講演でなく、教場と思つて皆さんに申上げますから、其御積りで御聽きを願ひます、即ち男子の睪丸は女子に於ては卵巢にあります、男子の輸精管は女子の輸卵管、攝護腺が子宮、陰莖が陰核、陰囊が陰唇、斯ういふ風にあります、是が何故分れるかといふことは生理學上未だ解りませぬ、それで右の攝護腺までを普通内生殖器と稱へ、陰莖からは外生殖器と申します、尚ほ此外に細かいことが澤山ありますけれども、さういふ面倒なことは申上げる必要はありません、是が男女の區別される所であります、さうして十ヶ月後に分娩された時は、解剖上には變化があるけれども、性質に於ては大した違ひはありません、發育を遂げるに従つて段々男女の差別が出來て參り、學齡頃になると餘程解剖的の變化が著しくなつて、單に生殖器だけでなく、筋肉の發育、或は皮膚の色澤、或は脂肪の發育といふやうなことが段々分れて來る、さうして最も著しいのは月經の來潮する時であることは勿論でありまして、此際は男子の方には未だ左程に性の變化を來さぬが、婦人には非常に著しい變化を來す時であります。

二、月經時の注意

月經が男子になくして婦人にのみ出來ることは、男女分れる時よりして解剖學上既に前に述べたやうな臓器に違ひがあるのであるから、出來ても宜い譯ではあるけれども、醫者の立場から之を見ると實に妙と言ふより外ない、是れは詳しいことは申上げませぬけれども、月經來潮の年齢は氣候風土及び生活狀態に依つて違ひがあるので、熱帶地方は最も早く、寒帶の方は遅く、日本のやうな温帶地方が其中を得て居るので、日本人では極く早いのは滿十二年位で來潮するものもあり、遅いのは滿二十歳位のもありますが、是は少しく異例で、先づ數へ年十四から十七まで位が最も多い、十四年七ヶ月といふのが今までの統計になつて居ります、之に反して印度邊りになるに早いは滿八歳で月經になるものもあり、寒い所では其平均が十六年位になります、又其生活狀態が、花柳界とか、さういふ淫猥なことでも耳にするやうな所に育つた子供は割合に早く、比較的性の問題を耳にしない生活

状態の人の娘さんは割合に遅い。月経は御承知の通り毎月二十八日目に起る所の子宮からの出血であつて、それは卵巣の中の卵胞が破裂をする、即ち卵巣は卵胞が無数に寄つて形成して居るものであつて、是が月々に發育して行く、發育すると同時に生殖器内の血管及び神経が非常に刺戟せられて、非常に充血を起す、其爲に子宮粘膜の細い血管が、今の卵胞が破裂すると同時に破れて出血をするのであります、其際に矢張り卵胞が子宮内に澤山出て来る、何故出て来るかといふと、卵胞の中には卵子があるのですから、是が男子の精蟲と合體して一つの受胎作用を起す豫備を爲すのである、斯ういふ譯で月経は来るものであります、さうして此際には唯今申したやうに子宮及び一般生殖器に充血を來しますから、一つの生理的現象は申しながら、矢張り色々身體に故障が來るので、此男女の差別の分る、所の月経の來潮期には婦人の精神的變化が大分起ります、是まで非常に快活であつた娘さんが非常に陰鬱になつたり、或は是まで好きな食物が嫌ひになつたり、又解剖的には骨盤が大きくなり、脂肪層が能く發育して來、陰毛、腋毛等が発生します、さうして精神状態の陰鬱になる娘さんは、物事を總て大した問題でもないのに非常に煩悶して、色

々な雜念を起したり、泣かなくても宜いことを泣いて見たり、怒らなくても宜いことを怒つて見たり、或は人に會ふのが大層嫌ひになつて來たり、何か他から脅迫的のことでもされるやうな氣がしたり、人から辱められるやうな氣がしたり、色々になりますから、其際には餘程周囲からの注意が必要と思ひます、それと、前以て十二三の時から月経と云ふものは斯う云ふ風な精神状態になるものである、誰もさうなるものであるから別段心配するには及ばない、それに付てはもう少し能く精神を鍛練して、何事にも打克つ精神を有つ様になす事を他から教へて置くことが必要である、何等教へもなくて突然にさう云ふ生理的の變化を來すと恐怖と不安との爲に食慾がなくなつたり盗汗が出たりする事があります尙此時機には卵巣炎に罹るとか結核を起すとか、ヒステリーになるとか、大變に大きなことになり易いのでありますから、此時機には十分保護しなければならぬと思ひます。

それで私が皆さんに御願ひしたいのは、昔から月経は非常に不淨なものと考へられて居つた、けれども是は先程申したやうに妊孕の準備であつて、人事に取つて最も大切なものであることを御考へを願つて、昔のやうに男子の方の側に坐つてはいけない、神佛に對し

てもいけないと云ふやうな觀念を去り、月經になつたから恥かしいと云ふ觀念を起さしめないやうに、却つて普通の婦人たるべき身體になつたことを非常に愉快に感ぜしむることが最も必要だらうと思ふ、さうして其時代は婦人自身も、他からも最も注意しなければならぬ時代であるから、先づ工場に通ふ娘さん、百姓に出る娘さんでは、私の申すやうに月經中はお休みなさいと言つても、今までの習慣で到庭出來得べからざること、は思ふけれども月經時の攝生のことを考へたならば、さうして戴きたいと思ふ、私は日本は婦人のみならず、男女の活動の状態はもう少し機敏に、秩序的に、さうして時間を利用して可いと思ふ、お百姓などは随分御同情申しても宜いやうな働をして居ります、又工女などもなか／＼壓迫的にやつて居る、けれども自發的に時間を繰廻して行くやうな頭は未だ少い、それ故に指導者である皆さんは處女に限らず、青年にも時間を上手に繰廻して、さうして餘裕を造らしむるやうに不斷教へることが最も必要と思ふ、それで今まで二十八日間働いた時間を二十三日間に縮めて、是だけの能率を挙げしめて、月經と云ふものはちよつと聞かれても顔を赤らめるやうなことの無いやうに公にして月經の期間はお留守居でもして、

家で御飯でも炊いて皆さんの外に出て働くのを御待受けするやうな方法を執つて戴いたら大變宜いやうに思はれる、私は都會の女學校の生徒や先生方に御話するのですが、女學生などは試験前に月經になる事がある、斯ういふ時には齷齪勉強して居るが、之を一ヶ月の二十三日間今までより一時間づつ、でも多く勉強して、さうして月經の時は單に學校へ行つて遊ぶだけに止めて置く、豫習、復習をしないで何か自分の好きな本でも読んで居るとか或は裁縫でもして居るとか、寢て居らなくても宜いのですけれども心身を休める方法を執つて、學校でも月經期間であると云ふことを先生方も能く御承知になつて、宿題等も無理になさらないやうに、若しも身體に生理的變化があつたならば二三日延びても宜いと云ふ位にして戴きたいと云ふことを御話して居ります、能率の方は時間の利用で幾らも挙げ得ると思ひますから、それを皆さんに御願ひしたいと思つて斯う云ふ問題を出したのであります。

又是は少し申上げにくいことですが、月經時は生殖器が一般に充血して居りますから、ちよつとしたことでも細菌が這入り易い、それから身體の方の關係で非常に精神を痛めま

したり、又婦人の感冒の過半は月経期に罹るので、眠いものですから轉寢でもした時とか不眠はそんなでもないけれども、外に出て風邪を引いて歸るとか、地方の娘さんなどは體力が強いから比較的感じないでせうが、都會生活をして居る女學生などは感冒が非常に多い、私の學校の生徒でも感冒の原因を聞いて見ると、月経時に机に掛つてちよつと微睡むさう云ふやうなことから起る、其時は自然鼻も悪くなつて、肥厚性鼻炎を起すことが多いそれ故に不眠は能く働いて、月経時には何か樂みをして居やうと云ふことになつたら、日本の婦人の病氣は餘程減ります、のみならず一般の體質が餘程良くならうと考へて居りません。尙ほ是も御聞き苦しいでせうけれども、女の先生方が御出になりますから、是も徐ろに御話になつたらそんなに御話にくいこゝでもなからうと思ひますが、よく月経時の處置に付てタンポンをしますが、是は最も危険なものです、私はどうかして止めさせたいと思ふ、脱脂綿だから何等危険がないと御考へでせうが、脱脂綿其ものが既に怪しい、私の病院などで使ふ脱脂綿は非常に高い温度の蒸氣竈で殺菌して使ふ、分娩の際でも、手術時でも、皆さうして使ふのですが、普通のものは脱脂綿が既に危い所へ持つて來て、それを疊

の上などに抛つて置いて、自分の不潔な手で割いて腔内に送り込むのです、大概腔の周圍に細菌がくつ附いて居つて一緒に送り込まれるのですから、其細菌の爲に子宮内膜炎を起したり其他色々の病氣に罹り易いのであります、併し若しタンポンを使はなくても不潔にすれば病氣を起します、月経時には風呂へ這入つていけないと申しますが、不潔にしなれば風呂は非常に害のあるものではないので、今申したやうにタンポンが宜しくないのと、又タンポンをしないで風呂に這入ることは他の人の前に對しても濟まない譯でありますから禁じて置くのです、それで毎日周圍を成べく清潔にすることが大切である、故に鹽の如きものを専用になし置き腰湯をなすのである、一週間の間お湯へも這らず不潔にして置くことは最も危険なことである、どうぞ之を裁縫でも教へる時に徐ろに御話になるとか、或は處女會でもあつた時に御話をする様に致したいのである、實際爲になることならば少しい位顔を赤らめる位の話は差支ないのですから、斯う云ふことを能く御教へになれば婦人科病は餘程少くなります、今日は昔よりも一層病氣が多い、昔はもつと不潔にして居つたけれども、大抵タンポンなどは使はなかつた、段々幾分かづ、衛生思想が普及されると同時

に脱脂綿なるものが大變に用ひられ脱脂綿は安全だと云ふので、一を知つて其二を知らないやうなことをして居つた爲に大變婦人科病が多い、それ故に是は最も必要なこと、思ふ。それから腸胃の働が悪くなり、異常物を嗜むやうになつたりして、大變食物を多く食べたり、少く食べたり色々になつて來ますが、此際食欲が増したと云つて多く食べれば腸胃を悪くする、食欲がないとて食べなければ又いけません、で不斷より消化し易い食物を少し不足に攝ることをいつも考へて置くことが大變必要であります。

此月經のことに付ては公に聞くことが出來ないからでもありませんが地方なごから色々の質問が澤山に來ます、どうも相濟まぬ譯ですが、一々御返事も出來ないで、よく〜のものより御返事をしませぬが、其場合に、少し腰か痛い、ちよつと睡氣がして一日二日何となくお腹が重苦しくて痛いとか、記憶力が少し減退したと云ふやうなことは、生理的に決して病的ではない、又二十八日目毎に月經があるべき所を三十日目、三十四五目目にあつても、是でも病氣ではない、近頃は衛生の本を讀んで非常に神経過敏になつて、却つて衛生に害になるやうなことが澤山あるのですが、斯う云ふ風に一週間位後れることや、又

十四年七ヶ月が平均であるけれども、或は十七か十八になつてもないこともある、是も別段病的と云ふ譯ではないのですが、二十歳以上になつても無かつたならば必ず何所かに異状があると考へなければならぬ、併し普通より少し後れるか、早いとか少し腰の痛い位は別段病的でないのですから餘り神経過敏に考へる必要はない、それでお腹が三日も四日も非常に痛い、嘔吐をする、下痢をする、顔色が眞蒼になつて到底仕事もして居られない、時に依るに卒倒する人がある、斯う云ふのは必ず病的ですから早く相當の専門家に掛ることを御勧めしなければならぬ、又二十歳以上になつても月經がなかつたら、是は病的で、二十歳以下であつても毎月定期的に或はお腹が大變張つて來るとか、吐き氣があるとか云ふのが半歳も續いて、月經がないやうな場合は、是は月經はあるけれども、膣が閉塞して居るとか何か故障があつて外に出血しない、さう云ふのは最も危険である、膣内に毎月々々の經血が溜つて凝血を起して、子宮を壓迫し、膀胱を壓迫し、遂にそれが腐敗して腹膜炎を起すやうなことになる、是も往々にして見受ける所で、斯う云ふのは醫者に掛つて手術をすれば直ぐ癒るものですから、少し位は病氣でないと云つて手後れにしても又いけな

い場合もあります。それから何等身體に故障がなく、月經がない即ち無月經の人もある、それから女子のやうな容貌をして居つて子宮や卵巢の缺けて居る人もある、斯う云ふ人は殆ど無月經です、是は醫者に掛つた所が子宮卵巢を附ける譯には行きませぬ、併し子宮や卵巢の發育が悪くて二十歳位まで月經のない人は相當まで或る刺戟に依り、或は藥液に依つて付けることが出来ます、先づ此位の程度を御考へになつて皆さんに御指導爲すつて戴けば大した誤りはない、唯前に申上げた月經が排泄しないで腔内に溜つて腹膜炎を起した、もう手術してもいけない、もう少し早ければ宜かつたがと云ふ例は時々見る、斯ういふことは能く皆さん御記憶下すつて、若しやさう云ふことはないか知らんと云ふことを御注意なさることが必要である、それからもう一つ、月經がないと云つて何となく色が蒼く精神状態は過敏であるけれども、事に飽き易い、鬱々として居るやうな處女がある、斯ういふのは大方貧血の爲に月經がないのだらうと言つて抛つて御置きになるやうな場合もありますが、是が一番恐ろしい、それは丁度月經の來潮期頃から生殖器に結核が起る。喇叭管結核か子宮結核などが起つたので、「どうも月經の無い爲か下腹が大變張ります」と言つ

て御出でになるが、是は既に生殖器の結核から腹膜の方に結核を及した時で、斯うなると肺の方にも進んで行く、處女時代に月經の無い一つの徴候として生殖器の結核が大分ありますから、少し色でも悪いやうでしたら早く醫者の手當を待つより外ない、斯う云ふことも御考へ置きになつて戴きたいと思ふ。

三、結婚前の注意

是も前と連絡して居りますが、前に申上げたやうに月經時に非常に困難を來すやうだが、どうも處女であるから婦人科病ではないだらうと思つて結婚をさせると結婚してから大變悪くなる、それであるから何か白帶下でも少し多くて月經が困難であつたならば、結婚前に於て充分醫者の治療を受けて治して置くが宜い、先程申したやうに月經があつても外に排泄しないやうな者を其儘結婚させたならば、結婚の目的を達しないことになつて非常な問題になつて來ます、今のやうに全然閉塞して居なくても、月經は極く細い孔があれば通じますから、月經があつても矢張り腔に故障のあることもあり、又處女膜が非常に發

育して居つて、結婚させても其目的を達することが出来ないで問題になるやうなことも往々實驗する所ですから、前以て身體上に何等の異状がないかと云ふことを一應醫者に診て貰ふことが肝要であります、殊に生殖器に結核でもあるやうな場合に結婚させると、極く僅かなものでもどん／＼進んで来る、のみならず其夫にも感染させることが幾らもありませんから、斯う云ふ場合は親御さんの情として結婚させない譯にも行かないでせうが、それは御本人の不幸にして婚家の不幸になりますから、是等の情を忍んで結婚させない方が双方の爲に宜からうと思ふ、斯う云ふ點から云つても病氣の有無を御確めになることが必要であります。尙ほ最も注意を要することは、極く品行方正な處女であつても、どう云ふ機會からか病毒に感染されることがある、私共の所などへも始終参ります七八歳のお子さんが、淋毒性の子宮内膜炎を有つて居る、親御さんが喫驚します、醫者もマサカと思ふやうなことがあります、是は私共考へまするに、御両親の何方にか……汚い言葉ですが淋毒があつて、其手で以て何かするとか、手拭か何か持つて一緒にお湯に入れるとか云ふやうな場合に感染するこゝになるだらうと思ふ、それと、又少し御話しにくいことですが、どう

も淫慾と云ふものは比較的早く發達するもので、月經來潮期より餘程早く發達します、斯う云ふことは公の席では誰方も御話しませぬけれども、男のお子さんでも八つ九つになると既に淫慾が幾らか出て来る、女のお子さんでも七つ八つになると出る、學生時代に男女の差が付いて来ると云ふのは之を申上げる譯ですが、さう云ふ具合で何かいたづらにちよつと觸れることが時々ある、お子さんを育てるには餘程御注意にならなければならぬのであつて、醫者社會でも能く話す問題ですが、男のお子さんでも女のお子さんでも、朝眼を開いても長く寝かして置くことは大變危険なことがあるので、眼を開いて何か玩具のやうに弄る場合がある、是は冗談でない問題であつて、能く御注意にならないと、是が爲に身體が何となく衰弱して、精神が過敏になつて食慾の減退するやうなことが幾らもありません、さう云ふ譯ですから何かちよつとした動機で微菌を入れることもありませうが、多くは御両親の何方かに病毒があつて移すので、之を抛つて置いて、さうして結婚させる、結婚すれば忽ち微菌の蕃殖が甚くなつて、病氣が強くなつて来る、そこで自分のお貰ひになつた夫人は最も品行方正で、今まで曾て斯う云ふ病氣に罹つたことがないと思ふのに、病

氣があつたであらうかと云ふやうな疑問を起させることになる、何等品行上に不正なことがなくとも、小さい時に罹つたのが慢性になつて結婚と同時に甚だ悪くなつたと云ふやうなことがあるから、若し何か分泌物でも多いやうなことがあつたら、月經の来る前に治して置くことが必要である、是は地方には割合に少ないのですが、都會には大分多い問題でありますから、先づ結婚前に當つて身體を能く醫者に検査して貰つて、然る後に結婚させるのが私は理想と思ひます、未だ實行までは容易でありますけれども、皆さんがさう云ふ思召で居て下さると、段々實際に近づいて來はしないかと思ひます。

四、妊婦保護

妊婦保護と云ふと何か社會局あたりで申しさうなことです、さうではない、妊婦の身體であります、保護ミ特に致したのは何故かと云ふと、會員の皆さん方が御男子が多かつたから斯う云ふ保護の問題を出したので別段保護と云はなくても、妊婦の攝生と云つて澤山だと思ふ、妊婦なるものは先程申したやうに月經の時に卵胞が破裂して卵子が輸卵管を

通つて子宮に出て子宮壁に附着して居る、其所へ男子の精蟲が行つて相合體する、さうして合體した儘で子宮から喇叭管の方へ一度參つて、其所で幾分か時日が経つてから子宮内に降りて來ます、其時に皆さんも御聞及びかも知れませぬが、子宮外妊娠とか、喇叭管妊娠とかよく言ひますが、あれはそれが降りて來ないで其儘附着して細い喇叭管の中で發育します、喇叭管は到底之に對するだけの擴張力がないから破裂して腹腔内に非常な大出血を起し、手後れになると生命をも失ふことがよくある、それが子宮外妊娠、喇叭管妊娠です、さう云ふ風に一度喇叭管の方へ行つて、それが再び戻つて來て、今度は子宮壁に附いて漸次に發育して行く、是が妊娠である、さうして先程申したやうに九週間男女の別なく發育して、九週間経つと段々に男女の別が付いて來ますが、妊娠後一ヶ月半、數へ月三月目位經ちますミ、所謂惡阻（つわり）が起ります、是は男子の方は御解りにくいのですが、非常に不快なものです、是も色々程度があつて、軽い方もあり、重い方もありますが、一般に神經が過敏になり、物事に大變に忌み嫌ひが出來て來て、ちよつとしたことを想像しても直ぐ嘔氣（まじり）を催す、さうして夫の言付けも、姑の言付けも、親切に言はれることでも殆ど惡意に

解釋するやうな神経状態になつて来る、洵に苦しい、けれども先づ此位の程度までは別段病的ではないのですから、此際は傍から氣を付けて、是は悪咀である、妊娠して居る爲だから少し位今までより我儘を言つても、或は食物に好き嫌ひがあつても、是は無理はないことであるから、相當まで許して上げるやうな御考を夫、及び姑さんに有つて戴くことは妊婦に取つて無上の慰安である、さうかと云つて又餘り不斷我儘をさせると悪咀の原因になるから、日頃は餘り我儘をさせないで引締めて置いて、妊娠になつた時は成べく優しくして上げる、斯う云ふことが必要である、さうして其位ならば宜いけれども、もう一層進むと今度は三度食べた食事は皆吐いて仕舞ふ、それだけなら宜いが、食べないで胃液を吐くやうなことがあります、全體悪咀にも神経性の悪咀と中毒性の悪咀と二種あつて、神経性の悪咀は先程申上げた位の程度、尙ほ一層強くなつても精神に慰安を與へることで漸次に治つて来るけれども、中毒性の悪咀となるとさう云ふことでは治らない、是は注意を要する問題で、経験のある姑さんや、隣のおばさんなどが、悪咀は月が経てば治るものだからもう少し我慢して居れば治りませよなどと、言つて、又お嫁さんもさうかと思つて一日に五

度吐いても、十度吐いても醫者にも掛けずに抛つて置くやうな例もあります、さうして醫者に掛つた時は既に非常に衰弱を來して、脈搏が一分間に百五十にも六十にもなり、精神状態は朦朧として、どうも氣が少し變だと云ふやうになつて居る、さうなつてからでは手當をしても逆も駄目です、もう少し早かつたら中毒を薄める工風がありましたものを、残念なことをしたと云ふやうなことが幾らもある、それで昔の人は経験があつて大變宜いこともあるけれども、餘り経験が過ぎて却つて取返しが付かなくなるこゝが往々ありますから、若し三度の食事を吐いて五日も六日も止まらないやうな場合は、本當の病的の中毒性悪咀と云つて宜い、中毒性と云ふのは妊娠の爲に一つの毒素が血管内に出來て、心臟を犯し、胃を犯し、腦を犯して、遂に斯う云ふことになる、それ故に若しも三日も四日も引續きに吐くやうな場合には、若し中毒性の悪咀ではないか知らぬと考へて、醫者に掛けなければならぬ、さうして醫者がどんなに心臟力を強める注射をして、滋養灌腸をして、どうしても追付かないことがある、さう云ふ時はどうも仕方がない、小の蟲を殺して大の蟲を助けるで、醫者が二人以上立會つて、夫が承諾をすれば流産術を行ふ、さうすれば親

の生命は助け得られる、で斯う云ふことも處女に教へて置かれるが宜しい、妊娠は生理的で決して危険ではない、餘り恐怖心を起してはいけませんから、危険ではないけれども、矢張り一つの子供を發育させなければならぬから、時には身體に故障を起すことがある、さう云ふ場合は早く手當をせよと云ふことを教へて置くことが最も必要であると思ふ。

斯の如くして三ヶ月、長くて四ヶ月経てば悪阻時代が濟んで、其間に子宮壁に胎盤が出来て非常に發育して行く時であるから刺戟症状も大層多いし、今までよりも血行の變化も來ますが、もう既に三ヶ月経てば發育して卵胞も出來、羊水も澤山出來て、さう云ふ刺戟も少くなるから従つて今までの色々の問題も去つて仕舞ふ、さうすると大變氣持も好くなつて、不斷より一層食物も美味しくなる、何故斯うなるかと云ふと、矢張り造物主の仕事で、胎内に大事なるものを發育させるのであるから、今までより榮養分を餘計攝らなければならぬ、そこで此榮養の問題で又皆さんに御考慮を煩さなければならぬが、段々婦人が跋扈して我儘になつて食物なごも勝手に自分の欲するものを攝つて居りますが、まだなかくさうは行かない、先づ一番良い食は御主人、其次はお姑さん、其残りがあつたら主婦

が食べるやうになつて居る、其心掛は大變結構で、私共宜いと思ひますけれども、心掛は宜いが肉體を損じて仕舞つてはいけない、殊に第二の國民たる立派な者を産み出さうと云ふには、妊娠時ばかりでなく不斷にも、そんなに贅澤でなくとも、成たけ滋養分に富んだ物を食する事に心懸けるが宜い、其調理法、即ち選擇法は經濟的で榮養價のあるものを食べるやうに、さうして腸胃を壞はさないやうに消化のよいものを食べる、さうすれば立派な子供が出来る、どうぞ皆さんは處女の指導者であられるから、御歸りになつたら此考を以て御指導を願ひたい、安價で滋養價のあるものは幾らもありますから、先達も生活改善講習會の問題の時に話したことです、食物の中で一番滋養價のあるもので安いものは何かと云ふと、鱈です、皆さんは鱈は肥料にするやうに御考へてせうが、あれを肥料にするのは餘程勿體ないやうに考へます、あゝ云ふ風のものも幾らでも發見することが出来る、海藻類なごは血液を清淨にして、カルシウムも澤山に含んで居る、地方に依つてはアラメなどは容易く得られる所がありますから、斯う云ふ原理を御承知になつて居れば食糧問題などは安じて改善することが出来る、尙ほ昔からお姑さんなどが食物に付て色々迷信を

起して居ります、殊に妊娠の際は地方に依つてはまだ肉類を食べると四つ足の子供が出来るとか、耳の長い子供を産むとか色々言ひますが、斯様なことでは益々栄養を高めなければならぬ場合に益々栄養不良に陥らしめることになるのです、要は妊娠中の食物は古來より言傳へられる如くに忌む必要はない、それで私共は平生妊婦に御説明申すのに今まで慣れたものは何でも食べて宜しい、けれども不消化のものはいけません、是が爲に腸胃の加答兒を起し、さうして子供の方へ影響を及ぼして流産早産などが行はれる、酸類を嗜む爲によく酢貝類などを食べますが時々中毒し易いものであるから一切貝類は食さぬが良い、又蕎麥は場合に依ると下痢をしますから妊娠中は注意しなければならぬ、先づ第一の考は今までよりも胎兒の發育に要する丈の栄養分を餘計に攝る必要がある、其爲には容積が少して滋養分の多い物を食べなければならぬから、さう云ふ風に考へる事が大切である、さうすると自然是は嫌ひだと思つても、容積が少しく滋養になると思ふと非常に好きになる、私共食物を食べる時はいつでもさう云ふ考へを有ちます、それは日本食のやうに美しくして眼を樂まして食べさせることも必要ですけれども、私共はそれよりも是は消化がよく煮へ

て居る、是は大變營養價が多いと云ふことになる、味が悪くても好くても段々美味しくなるものです、それで醫者は唯肉體を醫するのが醫者の役目ではないので、精神を醫して行かないと肉體は醫して來ない、だから神經過敏になつた妊婦さんには斯う云ふ風に指導して行かれることが非常に必要である、此營養問題は處女時代から修養して置かないといけないので、徒らに自分の好きだ嫌ひだと云ふことでお終ひにして居るべきものでない、自分は嫌ひでも營養になるものは食べて置けば將來妊娠になつた時に大變宜いことがあります、さう云ふ譯で先づ惡咀時代が濟むと食物も大變美味しくなつて來ます。

さうして其中に注意しなければならぬのは流産です、是は一ヶ月以上四ヶ月まで流産と申して、其原因は過半淋毒を有つて居る夫に嫁いだ婦人にある、非常に罪の深いことであり、それからもう一つの原因は第一回の妊娠に流産が多い、是は結婚後間もなく夫婦關係の亂用さるゝからであります、それからあまは身體の過勞とか、冷えるとか云ふこととであります、第一、第二の原因を除けば殆ど流産は少い、之を皆さん方は御記憶して戴きたい、それから今度五ヶ月以上になると早産と云ふ名稱になります、早産の原因は十

人の中七人まで微菌です、二度も三度も早産の續くのは微毒が御自分になければ夫にある、二人ともなければ祖父母にある、隔世遺傳と云ふことがあります、それですから淋病微毒は流産早産の原因になる事が非常に多い、若し幾回も斯う云ふ場合が續いたならば微毒でないか知らんといふことを御確めになつて、早く手當をすれば何方も治る病氣ですから、早く治さなければならぬが、先づ其原因を造らないこと、是は處女にも教へなければならぬし、青年にも教へなければならぬ。尙ほ妊娠中に最も來易いのは浮腫です、普通水氣とも、ムクミとも申します、是はお姑さんが妊娠中の水氣はお産をすれば治る言つて放つて置いた爲に取返しをつかない事が往々あります、是が非常に恐ろしい、成程水氣には三種類あつて、第一壓迫性の浮腫、それから第二脚氣、元來脚氣は男女を比較して見ると男子の方が罹り易い性質を有つて居るが、妊娠中の女子は特に脚氣に罹り易い性質を有つて居ります、第三には腎臟炎、此三つから水氣が來ます、是は醫者が診ますと腎臟炎の方は顔から先きに浮腫が來るとか、脚氣は足から先きに來る、壓迫性浮腫は矢張り足から先きに來ると云ふやうなことで、色々の方面から鑑別しますけれども、素人の方には解り兼ねます昔からの言ひ傳へで、壓迫性浮腫が一番多い、大抵の妊婦には來るものですから、其多いものを取つて經驗上お産をすれば治ると言ふ、成程壓迫性浮腫ならばお産をして血行が付いて來れば治る、併し之をどれにも應用してはいかぬのである、若し腎臟炎に罹り居るのを醫者に診て貰はず其儘になし置く時は九ヶ月、十ヶ月となつて稍々お産氣附く頃になると突然痙攣を起す、之を痙攣と申しますが、丁度癲癇のやうな具合で、齒を喰ひしはつて痙攣を起して男が五人も大人もで押へるも尙ベットの从上から轉け落ちる様になる、お腹が少し痛んで陣痛發作が來る度に斯ういふことが度々あつて、お産をさせやうと思つても未だ十分子宮口が開かない、此際は一時も早く一方で鎮痙をさせて、一方でお産をさせる工風をして、初めて出して漸く親子助かつたと云ふ場合がありますけれども、餘程注意しないと生命を奪はれることがある、幸ひ分娩するまで痙攣がなくても、お産後に痙攣が來ることがある、是は一層性質が悪くて子供が助つて親が死んで仕舞ふといふ大變危険なものですから、若し妊娠中に他で見て少し顔が腫れたと思つたら醫者に掛る、若し腎臟炎ではないか、尿の検査をして貰へといふ風に注意して腎臟炎であつたなら一時も早く其

ねます昔からの言ひ傳へで、壓迫性浮腫が一番多い、大抵の妊婦には來るものですから、其多いものを取つて經驗上お産をすれば治ると言ふ、成程壓迫性浮腫ならばお産をして血行が付いて來れば治る、併し之をどれにも應用してはいかぬのである、若し腎臟炎に罹り居るのを醫者に診て貰はず其儘になし置く時は九ヶ月、十ヶ月となつて稍々お産氣附く頃になると突然痙攣を起す、之を痙攣と申しますが、丁度癲癇のやうな具合で、齒を喰ひしはつて痙攣を起して男が五人も大人もで押へるも尙ベットの从上から轉け落ちる様になる、お腹が少し痛んで陣痛發作が來る度に斯ういふことが度々あつて、お産をさせやうと思つても未だ十分子宮口が開かない、此際は一時も早く一方で鎮痙をさせて、一方でお産をさせる工風をして、初めて出して漸く親子助かつたと云ふ場合がありますけれども、餘程注意しないと生命を奪はれることがある、幸ひ分娩するまで痙攣がなくても、お産後に痙攣が來ることがある、是は一層性質が悪くて子供が助つて親が死んで仕舞ふといふ大變危険なものですから、若し妊娠中に他で見て少し顔が腫れたと思つたら醫者に掛る、若し腎臟炎ではないか、尿の検査をして貰へといふ風に注意して腎臟炎であつたなら一時も早く其

手當をなして置けば分娩時の此の危険を免かれるのである。で病的の分娩をして一番多いのは痔瘻と産褥熱と、前置胎盤とで、斯う云ふものがなければお産は決して重いものでない、是は要するに初めから豫防することが出来る病氣であるから、「お産をすれば治るヨ」で到頭母子二人殺して仕舞ふのはお姑さんの罪の重いものであります、けれどもそれは時代が然らしめたので、今後は皆さんが能く之を御記憶になつて御指導にならなければいけない。

それから是は地方には餘りないが、東京によくあるのは脚氣です、脚氣で心臓の弱つて居る所へお産の際は非常なる激しい努力をしますから心悸亢進して胸が苦しくなり、詰り脚氣衝心を子供の出来ない中に起すことが往々ある、幸に脚氣衝心が落附いてお産が済めば血脚氣と云つて腰が抜けるやうなことがよくある、又それに罹るミ子供に乳を飲ませることが出来ない、若し飲ませると其乳には一つの毒素が這入つて居つて乳兒脚氣を起して、子供が寢て居る中に心臓麻痺を起して死んで仕舞ふことが多い、餘程危険なものです。それから腎臓炎であります、九ヶ月位で早期破水を起して早産することが多い、さうして

二日も三日も陣痛が来ないで、子供が胎内で死ぬことが澤山ある、矢張りさういふことの原因になりますから、早く浮腫を治して、先程申した流産早産の原因を除くことが大切であります。

それから妊娠中の注意として、是も地方には餘りありませんが、東京などにはよく斯う云ふことが行はれます、初めのお産は大變心配ですから親元に行つてお産をする、其親元は九州の果もあれば北海道、樺太のこともあります、實にどうも日本の婦人は依頼心ばかりで自分と云ふ念慮が少いことを私よく考へるのですが、第一衛生上から言つても乗物に乗つて長途の旅行は一番悪い、東京市内で電車に乗る位、又は學校に通ふ位のことには構はぬが、又地方でも是まで慣れたことを働く位は構はぬが、長途の旅行とか、お米を搗ぐといふやうな非常な努力を要するものは妊娠中は何とか代つて戴かなければならぬと思ふ、或は大變高い所へ手を舉げて努力するやうなことは成べく避けしめたい、併し長日月のことですからさう無暗に養生といふことばかりも出来ぬが、妊娠の初期の三ヶ月、及び分娩期に近附いた一ヶ月間位は餘程注意しなければならぬ、先づ五ヶ月から八ヶ月までの間位

は大したことはないけれども、注意は懈れぬ、殊に長途の汽車旅行は最も危険で、よく三百里四百里の途中で産氣付いたといふ例がある、産氣附かないまでも位置の變化が往々あるのだから、どうかして是は止めたいものです、東京邊りの極く便利のある所に居る人が態々田舎の不便な所へ行つてお産する必要はない、殊に其夫たる人に非常に不便を與へる、三ヶ月も四ヶ月も家を空けて地方へお産に行くなどは何方から言つても大變いけないことです、又地方ではそんなに長途の旅行でなく、里へ行つてお産をする習慣がある、是も矢張り良い習慣ではない、第一蟲が良過ぎる、お嫁さんを貰つてお産の時だけ歸すのは随分是は常識に外づれたこと、言つて宜いと考へる、それは習慣上家に歸れば遠慮がない又一つは夫婦の關係を絶たせやうと云ふ所から起つた問題でせうが、さう云ふことは自力で御制しになつたら宜いことであるし、矢張り妊娠してお産をするまでは本當の大切な奥さんであり、本當の大切な嫁であるといふことを考へて、さうして十分に保護して上げる、お姑さんも十分世話をする、又お嫁さんももつと信頼して、夫の傍でお産をする位安心なことではないと云ふ精神を妊婦に起さすことが最も必要であつて、里に歸ることなどは

絶対に御止めにならなければならぬ。

五、分娩時の注意

さうしてイザお産といふ場合には、其一ヶ月位前からして、子供の衣物の用意をするのが、自分の産後の一と月間寝て居る間の用意をして置くといふ位に止めて、餘り過度に働かないで置くやうにありたい、それは其人々々の生活に依つてなかく出来ないこともありませうが、此心懸けが肝要であると同時に周囲の人々も九ヶ月に這入つたならば成べく大事にして上げるやうにしたいと思ふ、それからイザお産といふ場合は、今までの習慣は明るい所では身嗜みがないといふので、暗い、微菌の澤山に居る室で、おまけに疊を上げて薬を敷いて、マア薬は吸収力があるから宜いやうなもの、何等殺菌もしないものを澤山に置いてお産をするやうになつて居りますが、光線と空氣位身體に必考なものはない、長い間の妊娠で幾分か身體が衰弱して居る、殊に分娩の際は非常に努力して弱つて居るのに、眞暗い光線も空氣も碌に通はない室に長い間置いたならばどんなに身體の肥立

の遅いものであるかといふことを先づ御考へになつて、分娩の時は一生の大事であるから一番良いお坐敷の光線も能く通る室でさせる、さうしてお産をさせる時には其室にはお産に必要な物の外何も置かないで、前以て空氣の流通を良くして微菌の繁殖しないやうにして置く、それは何故かと云ふと、産後の發熱は殆ど微菌の侵入から来る、月經時でさへ總ての充血を來して微菌が侵入するのですから、殊にお産の後は生殖器が非常に過敏になつて居つて、どんなに奇麗にお産をしたと思つても何所か見えない所に擦過傷がある、皮膚でも粘膜でも少し傷があれば微菌がどんくゝ這入るのですから、清潔といふことは最も嚴にしなければならぬ、さうしてお産に要する器物は充分消毒の出来るものにした、是等は一生を通じて僅なものですから、日頃は節儉をしてお産の用器は新鮮な、能く消毒の出来るものを使用する、さうすれば不經濟ではなく却つて經濟になる、分娩時の不注意からして産褥熱とか、或は子宮周圍炎とか、貧血して産後の血の道が起つたり、詰り一文呑みの百知らずと云ふのが大變多いやうですから、能く注意が肝要です、近頃は大分産婆も澤山出來て、地方にも普及しませうから、先づ隣のおばさんに嫌で臍の緒を切つて貰ふこと

などは止めて、あの臍の緒から大變問題が起るので、あそこを不潔にした爲に微菌が這入つて子供さんが丹毒とか破傷風に罹つたやうな例が澤山ある、斯う云ふ所は充分消毒をして、褥婦さんも充分消毒をして上げて、先づ一週間は決して起さない、便所にも行かず便器を用ひる様になすが良いよく我々の身分ではと言ひますが、我々の身分だから餘計しなければならぬ、身分が高ければ一年寢て居つても二年寢て居つても左程差支ない事もありませんが、我々が長く寢て居つて仕事が出来なかつたら大變ですから、一週間は是非便器で便を取る、便所へ行つた爲に下風を引いたとよく言ひますが、あれは便所の中には微菌が澤山居りますから、それかが下から這入つて歸つて來て發熱するやうなことが幾らもある、さういふ微菌が這入らないまでも身體の動作に依つて出血が多くなり、子宮の收縮が悪くなり、腦貧血を起すやうな場合も随分ある、それですからお産といふものはさう一年に二度もするものでないから、一年の中に産前一ヶ月産後一ヶ月間を大事にして、其中産前の一ヶ月は自分の仕事は出來ます、産後の一ヶ月間を大事にすればそんなに後難を起すことがないので、此際は充分に他から注意して保護して上げなければならぬ、是も

私共同性を悪く言つて濟みませぬが、女は實に慾の深いもので、一つの脱脂綿を使ふのも大變惜しいやうな気がする、晒木綿（さしきわた）をおシメにするのは勿體ないとか、なか／＼慾の深いものです、だからどうぞ御婦人の方は不斷は能く節儉して、お産と月經時には、そんなに贅澤は要らぬが、相當なる、清潔なるものを能く考へて使ふやうにする、是は處女時代から鼓吹（こま）して其頭を造らして置いて、お嫁に行く前からお産に必要な貯金をして置いたら宜からう思ふ、何か分娩保険とか、妊娠保険とか貯金とかいふ會社でも造つたら宜いかと思つて居りますが、さうして相當な産婆に掛かることを心掛けるのが大變宜いと思つて居ります。

それから食物ですが、食物は色々儀式があつて、支那邊りでは赤い卵とか色々なものを造つたりしますが、それは大概不消化物が多い、どうも野蠻の國ほど儀式が多いので、儀式は悪くはないけれども、地方に依ると力餅（ちからもち）といつて三日目に褥婦に餅を與へる、それが不消化の爲に腸加答兒（ちゅうかたご）を起すやうな事ではいけないから、儀式は儀式で他の人が爲すつて褥婦には矢張り相當な食物を與へて御置にならぬと、其爲に一生の漫性の腸胃加答兒（ちゅういふがたご）にな

ることがある、第一に私の執ります主義は、分娩した日には牛乳でも上げる、地方に依つて牛乳がなければお粥（かゆ）を上げる、さうして淡泊（たんぱく）な鯉節（こしご）に梅干位にして置く、分娩の翌日は卵にお粥、おカカ位の所にして置く、牛乳も與へますけれども、それはどうでも宜しい、三日目になるとお刺身（さしみ）、鳥の汁（つじゅう）、四日目から魚の鹽焼でも、煮魚でも構ひませぬ、野菜類は馬鈴薯、豆腐のおつけでも大變結構です、一週間は斯う云ふ風な状態で、消化し易い野菜や魚のやうなものにして、八日目になるともう便（はん）にも起し、食物も御飯を一度は與へます、さうじて御飯を食べる時だけ徐々に跪坐（かゝりざ）させる、七日、八日はさういふ風で、九日目になると二度御飯にして、肉類でも上げます、副食物は殆ど普通のを差上げる、さうして何等異狀なく消化して行つたら、其翌日から三回御飯にして、便所に行くとか、食事の時は起きて食べる、又簡単な小説位は讀まして差支ない、餘り退屈ならば二週間経つたらお子さんのお襦袢（じゆばん）を代へるとか、衣物でも着替へてやるとか、床に就て居つて室内を寝たり起きたり位にする、洗濯はいけませぬ、間食はしないやうにして、翁飴位（おんじゆう）にして置く三週間以内にお祝（いわい）かいつて赤飯や餅などを食べると、それが爲に腸胃を害しますから

成だけ軽いものを食べるやうにします、三週間経つて所謂枕直しといふやうになりましたら、床を上げて、室内で掃除する位は宜い、一ヶ月経つたならば極く無事なお産であつたならば平常の仕事に移つて差支ない、併し炎天に田の草取などは未だ早い、家の臺所に働くとか、洗濯のやうなものは差支ない、斯ういふ風の方法を執つて居るのであります、是だけはそんなに贅澤なことでもなし、實行の出来得べきことである、何故斯うしなければならぬか、是は十ヶ月間身體が虚弱になつて居り、分娩時には或は十二時間、十八時間の非常なる努力に依つて大變身體を損めて居る所へ出血があつて、其榮養を回復するには徐ろに榮養物を攝らして、さうして餘り過激な働などをさせると何所かに故障が起る、斯ういふことを念頭に置けば、そんなに早く起きて夫や姑に不便をさせないやうにといふ念慮がなくなるから、斯ういふ考へを御有ちになつて宜いやうに思はれる。

それからお子さんですが、地方では忙しいから餘りそんなことはないが、東京邊りではお産すると其喜び人が大變です、餘り良い兒でもないのに大層良いお見さんですなご、心にもないお世辭を言つて、あつちが抱いたり、こつちが抱いたり、又次のお客が来るや

うな有様ですが、子供の臍帯がすべるのは早くて四日、遅くて一週間ですから、それまでは極く安靜にして居らぬと、臍帯が擦れた爲に炎症を起して病氣になることがありますから、極く安靜にしてお祝などは一週間は絶対に持つて夾させないやうにする、是は産婦の方からいつても、安眠は身體の回復に大變必要でありますから、本當に身體の回復するまでは極く安靜にして置くこゝが必要であります、それから是は土地に依つて違ひませうが、三十日か三十一日経つとお宮詣をする、東京邊りですとお宮様に詣る念慮もありませんけれども、多くは衣物を披露したい爲で、産衣を上には掛けて俥に乗せてお宮詣りをして親類歩きをする、歸つて來ると寒い時はお子さんが肺炎などを起す場合がある、極く繊細な身體ですからお宮詣の爲に肺炎を起す、又夏でありますと非常に暑い所を一軒々廻つて、歩いて歸つてから腦膜炎、消化不良を起すやうな例があります、お宮詣りは結構ですが、衣物の披露に歩いてお子さんの生命を取られることがありますから、先づ一ヶ月間は室内から出さないで、丁度お宮詣り頃からして冬ならば暖い時に朝晩十五分間位づ、ちよつと外に出して身體を強くすると云ふ積極的の育兒法をするのも結構であります、丈夫に

育つには日頃皮膚を強くすることが必要であります、空気のことは地方の空気の良い所では餘り申上げる必要もないのですが、清潔なる衣物を度々着替へさせる、其際に空気に觸れしめる、お襦袢は唯替へるよりも、ちよつと二分間か三分間お子さんの身體を空気に當てしめると大變發育が良くなるので、寒い折などはお襦袢を半日も替へないで置くやうなことは皮膚を弱くして感冒に罹る因よになりますから、十分清潔にする、斯んなに仕事忙しいのに子供の世話など出来ないといふ問題が出ませうけれども、是を一つ／＼漸次に改善して日頃の能率を擧げて、育兒の注意、分娩時の注意、月經時の注意といふやうなことを徐々に行はれるやうにする、地方の處女、婦人方が段々衛生思想が發達して來て、さうして割合に色々な疑問を起し却つて神經過敏になる様の事もあり、今の所では寧ろ昔のやうに何も知らなかつた方が宜しくはないかと思ふやうなのが澤山ありますが、是は矢張り過渡時代で、一つの進歩する階段だと思ひますから、皆さん方は十分に此原理を御辨わへ下すつて理論的に段々指導して下すつたならば、本當の理想の域に達する時機があらうと思ひますから、或は私が理想論者で實際に役に立たないといふ思召もありません。

も、漸次に御實行なすつて下さいましたならば國民の體育上餘程裨益ひやくする所があらうと自分で考へますから、どうぞ其思召で御實行を願ひたいのであります。(拍手)

これからの處女の爲めに 下卷 終

大正十一年七月三日印刷
大正十一年七月七日發行

上卷
下卷
各

定價金壹圓參拾錢

不許
複製

こかれらの處女奧付

編纂者 處女會中央部

發行兼印刷者 日比順造

東京市本郷區助坂町百卅六番地

發兌元
賣捌所

東京市本郷區
助坂町一三六區

東京市神田區
錦町一ノ區

日比書院

振替口座東京一四二四三番

阿佐美書店

振替口座東京五九三五一番

エト7B30

處女會中央部編 ◆ 四六判紙裝頗美本

これからの處女の爲めに

上下二卷五百餘頁
上下各冊
定價金壹圓參拾錢
送料各金拾錢

刊新最

要概次日

(卷下)	(卷上)
處女生活改善 <small>(細目三十節)</small> 業東京女子商 嘉悦 孝子	開會の辭 山脇高等女學校校長 山脇 房子
衣食住の整理及改善 <small>(細目二十六節)</small> 校東京女子高等師範學 教授 甫守ふみ子	婦人問題概観 <small>(細目五十一節)</small> 女學 校長 宮田 修
食物と健康 <small>(細目十六節)</small> 醫學 博士 二木 謙三	歐洲處女の節制問題 <small>(細目二十一節)</small> 陸軍中將 堀内文二郎
性と結婚 <small>(細目六十節)</small> 醫學 博士 永井 潜	處女の修養 <small>(細目二十一節)</small> 女學 校長 三輪田元道
婦人の衛生 <small>(細目五項)</small> 東京女子醫學 專門學校校長 吉岡 彌生	處女の貞操 <small>(細目十四節)</small> 基督教婦人矯 風會總幹事 久布白女史
	處女會の補習教育 <small>(細目三十節)</small> 教育部社會 教育課長 乘杉 嘉壽
	處女會の眞操 <small>(細目十五節)</small> 內務書記官 大野綠一郎
	處女會の幹部養成 <small>(細目二十三節)</small> 處女會中央 部評議員 山本瀧之助

本書の内容は目次に示したる如く専門諸大家の尊重すべき研究と、讚嘆すべき金玉の講演とを蒐輯したるもの、處女の教養と指導と誘掖に對しては、眞に空前の一大寶典と稱すべきものなり。苟くも日本現代の處女に對する要望と期待とを明白にする外、一般處女に殊に日本處女の特質に就て、細大洩らすところなく論評し言説して餘りあるもの、實に無二に珍書として、本院は茲に至大の満足と誇りとを以て江湖諸彦に推奨するものなり。

終